

4年2組 道徳科学習指導案

授業者 市原 佳美

1 主題構成表

主題名 友達と互いに理解し合って

資料名 同じ仲間だから

■内容項目B 友情、信頼

友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。

■価値の分析

- ・友情、信頼は、友達との関係において基本とすべきことからである。
- ・友達関係は、児童にとって最も重要な人間関係の1つであり、児童の日常の大半を占める。学校生活が楽しく充実したものになるか否かを決定するほど心理的に大きな幅を占めるものである。
- ・中学年においては、「互いに理解し、信頼し合う」ことが重要になる。この時期の児童は、相手のことを考えることの大切さは理解している。しかし、「相手のことを考える」というのはどういうことなのか」ということをじっくり考える機会は少ない。そのため、関わり合う中で、自分のこれまでの経験をもとにするだけではなく、それを相手に重ね、相手目線で考えられるようにしたい。例えば、係や班において、ただ活動するだけではなく、その過程で互いの考えや思いを話し合う機会を設け、理解し合えるようにする。こうして互いを理解し、ともに活動することを通して、信頼が生まれてくる。そして、今まで以上に自然な助け合いが生まれるのである。

■内容項目から見た児童の実態

(意識)

- ・1学期にハリオ合宿、2学期に運動会があり、学級や学年の仲間とともに力を合わせて取り組んだ。4年生になり、グループで一つの係を受け持ったり、役割分担をしたりして活動している。
- ・係として呼びかけたり、いけないことは注意をしたりする姿は見られるようになってきた。しかし、仲のよい子同士では、周りの仲間に流されて、友達を嫌な気持ちにさせてしまうことがある。
- ・「友達が言うから一緒にやる」「違うことを言ったら仲間外れにされてしまうかもしれない」というように、周りの目を気にして、自分の本当の気持ちを我慢することが、友達を大切にしないことだと気付いていない。

(要因)

- ・相手のことを考えるとはどういうことなのかじっくり考える機会が少ないため、本当に相手目線で考える経験が少ない。
- ・周りの目を気にし過ぎて、自分の正しい判断で相手に接することができない。

■資料の分析

同じ仲間だから

- ・運動の苦手な光夫を仲間に入れるか入れないかで迷うとも子を主人公とした資料である。
- ・「光夫は休んだ方がいい」と主張した時に、光夫を入れるか入れないかで葛藤するとも子の気持ちに共感することができる。
- ・光夫の身になって考えて、ひろしに自分の考えをはっきりと伝える場面でのとも子の気持ちを考えることを通して、相手目線になって考えることの大切さに気付くことができる。
- ・3人で練習をすることができたので、3人共がよい気持ちで練習できた気持ちを味わわせ、互いに理解し、信頼し合うことが、友達を大切にすることなのだ気付くことができる。

■ねらい

自分が相手の立場だったらどんな気持ちになるだろうと考えて行動することが友達を大切にすることについてに気づき、自分の利害にこだわらず、相手の目線で考える心情を育てる。

■展開の構想

- ・友達とはどんな人か、今までの経験を振り返って発表させる。
- ・主人公が返事に困っている場面での、相手の気持ちを考えないで行動してしまった弱さに気付かせ、相手の身になって考えた自分とは違うことを言う友達の言うようにすることは、本当に良いことだろうかと思わせ、内面的な弱さを乗り越えたことを価値づける。
- ・相手の身になって考えた意見をはっきりと伝えることができた時の気持ちを考えさせることで友達の大切さに気付くようにさせる。また、その行動に対する自信を自覚させ、友達を大切にすることを行動に移すことができたことを再度価値づける。
- ・自分の生活を振り返り、できなかった経験とその時の気持ちを道徳ノートに書き、友達の気持ちを、その子の身になって考え、友達を大切にしようという意欲を高める。

■判断力・心情・実践意欲を高める工夫

- 【中心発問】「間違っていると思うの。」とひろしに言ったとも子の気持ちを考えよう。という問いで、光夫とよし子の立場を重ねた考えをもてるように深めの発問をする。
- 【表現活動】グループ討議を行い、「間違っていると思うの。」と言ったとも子の気持ちを多面的に考えることができるようにする。
- 【言語活動終末】自分考えの広がりや深まりを自ら感じることができるよう道徳ノートに自分の考えを書く言語活動を取り入れる。

■道徳科と他の教育活動との関連 (補充・**深化**・統合)

学活「係活動を工夫しよう」→道徳科「同じ仲間だから」→学活「学級の諸問題を解決しよう」
休み時間や班の係活動を振り返ることで気付いた友達を大切にすることについて改めてじっくり考えることを通して、グループで仲間外れをつくることなく、友達の気持ちを考え、大切にすることについて一層考えを深める。

2 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	◇これまでの経験を振り返って発表する。 ○「友達」とはどんな人か。 ・嫌がることをしないこと。 ・その子のために思って行動すること。 ○話の登場人物や人間関係を捉える。	・実際にあり得る身近な事柄として考えることができるように、自分を振り返る。 ・4人の登場人物とその人間関係をおさえる。
展開前段	友達を大切にすることについて考えよう。 ◇資料「同じ仲間だから」を読んでとも子の気持ちについて話し合う。 ○とも子は、なぜ返事に困っているのだろう。 ・光夫がいなければ勝てるかもしれない。 ・練習できないようなけがではないから、無理に休ませるのはよくない。 ・仲間外れにするみたい。 ・仲間外れにして勝とうとするのはよくないよな。 ・光夫はやる気であるから、入れてあげないといけなかな。 ・光夫を入れると、ひろしから何か言われるかもしれない。 ◎「間違っていると思うの。」とひろしに言ったとも子の気持ちを考えよう。 ・仲間外れはいけない。 ・やれるのに、無理に休ませるのは仲間外れみたいでよくない。 ・光夫を仲間外れにしたら、よし子と同じ思いをさせてしまう。 ・光夫を嫌な気分させてしまっているかもしれない。 ・光夫に悲しい思いをさせたくない。 ・みんなで協力して楽しくやりたい。 ○「わあっ。がんばれ、がんばれ。」と一段と大きくなった応援の声を聞いて、とも子はどんな気持ちだろう。 ・仲間外れにしないで良かった。 ・3人でやれて楽しい。 ・もし仲間外れにしていたら、光夫を悲しませただろう。	・教師が範読する。考えたいところに線を引く。 ・とも子や周りにいるひろしと光夫の状況を捉えさせることにより、光夫が仲間外れにされそうな状況だということをおさえる。 ・とも子が返事に困っている場面での、「光夫には休んでもらいたい」と「一緒にやる」という考えを交流し、勝負に勝ちたい気持ちとそんなことをして良いのかという気持ちの両方を捉える。 ・勝ちたいと強く思っているのに、光夫がいると負けてしまうという気持ちを確認し、葛藤するとも子に共感できるようにする。 【深めの発問】 ★よし子の手紙を思い出してはっとした時、とも子は光夫に対してどんな気持ちだっただろう。 ・とも子の気持ちを多面的に考えることが出来るようにグループ討議を取り入れる。 ・深めの発問により、よし子と光夫の気持ちを重ねて考える。
展開後段	○今後、相手の身になって考え、友達を大切にするために、どんなことを思って接したいか。 ・もし自分だったらと考えて、うれしいと思えることをしたい。 ・どうして○○さんは友達を練習に誘いつづけたのだろうと考えると、グループ全員がそろってやりたいと考えていたことがよく分かる。	・これまでの生活を振り返ることができるように、運動会の取り組みの様子を写真で提示する。
終末	◇「相手の身になって考え、友達を大切にすること」について本時を振り返り、道徳ノートに書く。	〈変容の見届け〉 ・自分の生活を振り返り、友達の身になって考え、大切にして良かったことを理解し、仲間外れをつくらないで生活しようとしている。

4年2学期 道徳 実態分析・評価シート

内容項目	教科・領域・活動	内容	評価	よさや成長
B 友情、 信頼	体育	ゴール型ゲーム		
	学活	一人一人を大切にしよう		
	学活	あだ名について考えよう		
	道徳	同じ仲間だから		
	行事	スクールフォーラム		
	日常	教室の過ごし方		
	日常	あいさつ		
	日常	休み時間の過ごし方		

< 2学期所見 >

評価のしかた 視点 B 友情，信頼

- 道徳の授業
- ・とも子の気持ちを考え発表することができたか。
 - ・よし子と光夫の気持ちを重ねてノートに考えを書くことができたか。
 - ・相手の身になって考え、友達を大切にするために、どんなことを思って接したいか書くことができたか。
- 日常生活
- ・相手の身になって考え、友達を大切にして生活しているか。